

附属支部は、附属小学校・附属中学校でそれぞれ情報教育の研究及び研修を行っている。ここでは、主に附属中学校の取組を紹介する。

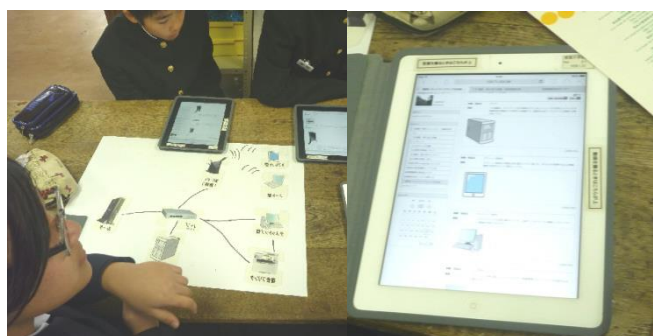
1 本校の携帯情報端末について

本校では、2010年度より、携帯情報端末（iPad）が全教職員に配付されている。生徒用の携帯情報端末（iPad2）は、40名の生徒が一斉に授業で使えるように20台・40台セットの2組を用意し、授業での効果的な活用を模索している。また、ICT活用に向けた取組として、教室用コンピュータ（Mac mini）やネットワーク接続における情報共有（校内 LAN、無線 LAN、グループウェアの利用）教材用アプリの効果的な活用について各教科で研究している。

2 授業での携帯情報端末（iPad）の活用について

技術・家庭科での活用

技術分野では、全学年で個人の活動を記録したり、資料などを掲載して授業で活用したりするCMS（NetCommons）を校内LANに設置し、運用を行っている。外部アクセスがない校内での運用であるため、個人情報の管理の面でも安全である。授業準備も、ヒントになる資料や製作のマニュアル等はブログ形式で行えるため掲載が容易にできる。



ネットワークの構成を考える授業

授業の補助資料

実生活ではFacebookなどのSNSが広く使われている。このような機能・仕組みを考える場面や実践的な体験を生かした情報モラルの学習に活用する目的で、iPad2のカメラ機能を使ってブログ形式での栽培・製作記録を行っている。写真サイズの縮小などの作業を伴うが、生徒は数回で簡単に扱えるようになった。



ブログ形式での栽培記録

NetCommonsにはアンケートや小テスト機能が搭載されている。そこで、本時のまとめの時間に小テスト機能を利用して学習内容を理解しているか確認した。生徒は情報携帯端末の画面をタップして正解を選択する形式であるため、数分で終わる。また、回答した個人の結果はすぐに画面に反映され、学年全体の回答の様子と比較できるため、まとめの時間に再度復習できている様子であった。生徒に聞いてみると、このような小テストはとてもいいと答える生徒がほとんどであった。

このような活動を行うことで、各個人が情報を適切に発信・活用できるようになったと考える。



確認テストの集計画面

3 今後の課題

- (1) 教材用アプリを授業に取り入れる授業改善と効果的な活用の在り方
- (2) 情報携帯端末を扱うスキルの向上と生徒の考えを共有する手段や方法
- (3) 情報モラルやセキュリティに関する研修の充実